

Y07a

国立天文台・星と宇宙の日でのアストロバイオロジー企画による宇宙生命に対する意識調査

日下部展彦(アストロバイオロジーセンター(ABC)/国立天文台)、大宮正士(国立天文台/ABC)、持永千鶴(国立天文台すばる室)、ほか企画展示をお手伝いいただいた皆様

2015年4月、自然科学研究機構にアストロバイオロジーセンターが設立された。宇宙における生命という分野は一般の人にとっても興味関心の高い分野であるが、サイエンスフィクションと混同されやすい分野でもある。そこで、興味が高い点を生かしつつ、たんなる知識の押し付けではなく効果的に最先端の研究分野を伝えられるように、現状での「宇宙における生命」に対するイメージを調べるべく、天文学に興味がある人が集まる国立天文台特別公開「星と宇宙の日」の光赤外研究部のブースにおいて、イラスト企画をおこなった。2014年10月25日の特別公開では「想像上の系外惑星の姿」の企画で200枚のイラストが集まり、2015年10月24日の「系外惑星の宇宙生命」の企画においては400枚以上のイラストが集まった。

2015年の「系外惑星の宇宙生命」お絵描き企画においては、系外惑星の生命をイメージする参考のため、現状で考えられるハビタブルゾーンにある岩石惑星や、より内側にある灼熱の惑星、外側にある氷の惑星の想像図をポスターとして展示した。宇宙生命をイメージしてもらうに際し、生息する惑星のタイプ、生息環境、エネルギー源といったその生命の特徴についても簡単なワークシート形式で考えてもらうようにした。この企画から、天文に興味のある人が宇宙における生命といったときに、どのようなことをイメージする傾向があるのかを把握したうえで、実際のアストロバイオロジー研究を効果的に伝えるための手法を考察する。